



きがいの 広場

ひろば



全ページカラー仕様になりました!

100号記念特集 議員アンケート



- 6月定例会 一般質問…………… ⑨
- 委員会 テーマ活動報告…………… ⑮



おおぶの未来

みんなと一緒に
考えてみてね!



大西 勝彦

- ①労働組合書記長として労働運動をしていました。
- ②ほどよく都会
ほどよく田舎
- ③ちょっと田舎の
スマートシティ

久永 和枝

- ①歯科助手と他のアルバイトに明け暮れていた。
- ②自然が残り、静かな住環境が多いところ
- ③自然に囲まれ、一人一人が大事にされている。

議会だよりは、おかげさまで100号を迎えました。
3つの質問にみなさんなら、どう答えますか？

- ①創刊当時、何していた？
- ②今の大府のいいところは？
- ③200号の未来(25年後)の大府の姿は？

三宅 佳典

- ①企業内訓練校の指導員として走り回っていました。
- ②住み続けたいまちの上位評価どおりなところ
- ③都市計画道路が開通し渋滞のない大府になっている。

野北 孝治

- ①長男が誕生し、慣れない子育てに夫婦で奮闘していた。
- ②高齢者の方が元気で健康意識も高い。
- ③自動運転で市内を誰でもいつでもどこでも行ける。

木下 久子

- ①娘が4歳で子育てを楽しんでいました。
- ②みんなが元気！！
活気がある！！
- ③今以上に元気で活気のあるまちになっている。

鷹羽 琴美

- ①大阪の損保会社で派遣社員として勤務していた。
- ②ほどよく田舎、ほどよく都会で暮らしやすい。
- ③今と変わらず、まちも人も元気な健康都市おおぶ

加古 守

- ①会社勤務で、課長職でした。毎日、頑張っていました。
- ②公園なども多く、自然が身近に感じられるところ
- ③整備された自然の中、高齢者が安心して暮らすまち

森山 守

- ①学童保育指導員として、子どもたちと遊んでいました。
- ②市民に身近な市政
- ③健康な高齢者が豊かな地域をつくっている。

早川 高光

- ①建物整形外科医 (=街のペンキ屋さん)
- ②農工商住バランスのとれたまち、課題は国県道
- ③子どもから高齢者まで全ての方の笑顔あふれるまち

鷹羽登久子

- ①1、6、8歳、3児の家事育児と地域の役とアルバイト
- ②それなりに便利で、直売所の野菜や果物がおいしい。
- ③歩く道が安全で免許がなくても不便なく暮らせるまち

宮下 真悟

- ①大学生。バンドサークルでボーカルをしていました。
- ②おおらかで懐の深い人がとても多いと感じるところ
- ③一人一人の違いをより尊重し合い、支え合えるまち



初代 編集委員長 ～大山尚雄さんからのメッセージ～

おおぶ議会だより創刊100号おめでとうございます。
平成9年11月の創刊以来25年間、編集に携わった歴代委員の皆さん、サポートした事務局の皆さんの努力に敬意を表します。

当時、各種議会の情報公開がマスコミの話題となり、行政視察や政務調査費（現：政務活動費）等の開示内容が指摘されていました。そんな中で、大府市議会の念願であった議会だよりが創刊され、議案を始め審査状況、会派活動、一般質問、その他行政視察報告等、時を追って充実した内容に進化し、市議会への理解を深める役割を果たしてきました。

創刊時編集に携わった者として、歴代編集委員諸氏の努力と情熱に感謝し、更なる紙面充実に期待します。合わせて、議員の皆様のご活躍と大府市の躍進をお祈りします。



小山 昌子

- ①日本体育大学の2年生、陸上競技部で全日本を目指す。
- ②将来都市像を健康都市と掲げていて、住みやすいまち
- ③人口10万人を突破し、誰もがさらに住みやすいまち

鷹羽 富美子

- ①子育てと教師の仕事に追われても充実した毎日でした。
- ②子どもを産み、育てやすい環境が整ったまち
- ③自然を大切にし、人権を尊重し、誰にも優しいまち

藤本 宗久

- ①博多にて、企業人・家族の柱として懸命に働いていた。
- ②とにかく素敵な人が多い。これが住みやすさの原点
- ③市民の誰もが趣味をもてるようなゆとりあるまちに。

太田 和利

- ①建築資材商社の営業
- ②他市町へのアクセスが良く子どもから高齢者まで、ソフト面が充実している。
- ③駅前も変わり、地域の絆が強い笑顔があふれるまち

酒井 真二

- ①広島市中区紙屋町でサラリーマン
- ②自然環境も豊かで交通の便もよく住みやすい。
- ③緑豊かで元気な超々高齢社会、車は自動運転

柴崎 智子

- ①息子たちの子育て真っ最中
- ②親切な人が多い。健康の森、げんきの郷がある。JRが便利なこと
- ③市内の交通環境が整い、高齢者の足に不便がないまち

国本 礼子

- ①決意みなぎる大学4年生
- ②温かい人がたくさん・活気あふれるまち
- ③デジタル化が進み、全世代が暮らしやすく、人に優しいまち

山本 正和

- ①43歳、結婚披露宴サービスの会社を作って、10年目
- ②住みやすく、生活しやすく、バランスがいいところ
- ③いきいきと暮らせる共生のまち、お互いさまのまち

議会運営委員会

令和4年の活動テーマ

～ICT化の推進について～



宮下真悟 野北孝治 太田和利 木下久子
鷹羽琴美 山本正和 柴崎智子
(委員長) (副委員長)

総務委員会

令和4年の活動テーマ

～大府市における人に優しい
デジタル化について～



山本正和 森山 守 野北孝治 鷹羽富美子
早川高光 鷹羽琴美 宮下真悟
(委員長) (副委員長)

厚生文教委員会

令和4年の活動テーマ

～健康づくりについて・
子どもの育ちについて～



三宅佳典 柴崎智子 鷹羽登久子
加古 守 小山昌子 太田和利
(委員長) (副委員長)

建設産業委員会

令和4年の活動テーマ

～交通分野からの
まちづくりについて～

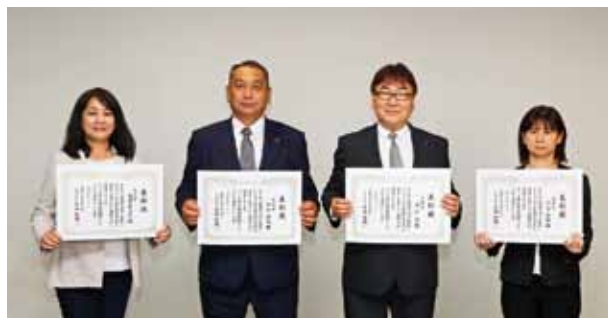


藤本宗久 酒井真二 久永和枝
大西勝彦 木下久子 国本礼子
(委員長) (副委員長)

表彰受賞者



久永 和枝 議員
森山 守 議員
早川 高光 議員
鷹羽登久子 議員



◆ 全国市議会議長会
◆ 東海市議会議長会
一般表彰 (15年以上)

議会の構成

■議長 早川高光
■副議長 加古 守

■東部知多衛生組合議会議員
早川高光 小山昌子
鷹羽琴美

■知北平和公園組合議会議員
早川高光 藤本宗久
宮下真悟

■知多北部広域連合議会議員
早川高光 野北孝治
森山 守 国本礼子

会派の構成 ◎は代表者

◆自民クラブ 7人 ◎鷹羽琴美 山本正和 太田和利 早川高光 加古 守 酒井真二 藤本宗久	◆公明党 2人 ◎柴崎智子 国本礼子
◆市民クラブ 5人 ◎木下久子 野北孝治 小山昌子 大西勝彦 三宅佳典	◆無所属クラブ 2人 ◎鷹羽登久子 宮下真悟
	◆日本共産党 1人 久永和枝
	◆無会派クラブ 1人 森山 守
	◆風民の会 1人 鷹羽富美子

5月臨時会・6月定例会の審議結果

結果の表示

◎全会一致で可決、同意、承認、採択
○賛成多数で可決等 ▲賛成少数で否決等
□ は、賛否が分かれた議案

5月臨時会 (5月13日)

番号	件名	結果
議案	31 大府市職員の給与に関する条例及び大府市特別職の職員で常勤のものとの給与に関する条例の一部改正について 国家公務員の一般職又は特別職に準じて、期末手当の見直しを行うもの	○
	32 大府市議会の議員の議員報酬、費用弁償及び期末手当に関する条例の一部改正について 国家公務員の特別職に準じて、期末手当の見直しを行うもの	○
	33 令和4年度大府市一般会計補正予算(第2号)	◎
	34 令和4年度大府市水道事業会計補正予算(第1号)	◎
	35 令和4年度大府市下水道事業会計補正予算(第1号)	◎
その他	- 総務委員会の調査研究結果の報告について ※	◎
	- 厚生文教委員会の調査研究結果の報告について ※	◎
	- 建設産業委員会の調査研究結果の報告について ※	◎
	- 議会運営委員会委員(正副委員長)の選任について ※	-
	- 閉会中における議会運営委員会の調査研究付託案件について	◎
	- 常任委員会委員(正副委員長)の選任について ※	-

※委員会の選任結果は4ページに、委員会の調査研究結果は15～17ページに掲載のとおりです。

6月定例会（6月2日～21日）

番号	件名	結果
議案	36 大府市税条例等の一部改正について 地方税法の一部改正等に伴い、改正するもの	◎
	37 大府市使用料条例の一部改正について 市民体育館第2サブアリーナに係る空調設備使用料の規定の追加	◎
	38 大府市特定公共賃貸住宅の設置及び管理に関する条例の一部改正について 同居親族要件の見直しに伴う規定の整備	◎
	39 大府市消防団員等公務災害補償条例の一部改正について 損害補償を受ける権利を担保に供することができる場合を定める規定の削除	◎
	40 令和4年度大府市一般会計補正予算（第3号）	◎
	41 令和4年度大府市国民健康保険事業特別会計補正予算（第1号）	◎
	42 町及び字の区域の変更について 名和町及び共和町の一部の町及び字の区域の変更	◎
	43 市道の路線廃止について 市道1079号線（一屋町）	◎
	44 財産の取得について（統合新設保育園給食室用備品） 取得金額 46,706,000円 契約の相手方 ハヤカワ産業(株)	◎
	45 財産の取得について（災害対応特殊消防ポンプ自動車） 取得金額 38,773,129円 契約の相手方 小川ポンプ工業(株)名古屋事務所	◎
	46 自治功労者の推薦について 館内三郎氏（柊山町）	◎
	47 令和4年度大府市一般会計補正予算（第4号）	◎
	その他	- 閉会中における常任委員会の調査研究付託案件について
- 議員派遣について（6月2日提出）		◎
- 議員派遣について（6月21日提出）		◎

賛成・反対が分かれた議案

（全会一致の議案は省略しています）

会派名	自民クラブ							市民クラブ					公明党	無所属クラブ		共	会	風	
議員名 番号	藤本宗久	太田和利	酒井真二	鷹羽琴美	加古守	山本正和	早川高光	小山昌子	大西勝彦	三宅佳典	野北孝治	木下久子	柴崎智子	国本礼子	鷹羽登久子	宮下真悟	久永和枝	森山守	鷹羽富美子
議案31	○	○	○	○	○	○	議長	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×
議案32	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○は賛成 ×は反対（議長は地方自治法の規定により、議決に加わるできません。）

会派名のうち、「共」は日本共産党、「会」は無会派クラブ、「風」は風民の会です。

議案審査

《5月臨時会》

総務委員会

令和4年度大府市一般会計補正予算
(第2号)

問 公民館等に設置する公衆無線LANが使用できるのは、いつからか。

答 令和4年10月から使用できるようになる。

問 防災情報アプリが使用できるようになるのは、いつからか。

答 先進事例の取組を参考とした本市オリジナルのアプリを開発し、年明け頃から仮運用を始めることを予定している。

厚生文教委員会

令和4年度大府市一般会計補正予算
(第2号)

問 各種給付金等の支給ミスを防ぐためにどのような対策をしているか。

答 支払いの場合は、決裁があり、上司が確認している。間違えて振り込むことがないようチェックをしていきたいと考えている。

問 健康管理システムの改修委託の内容は何か。

答 4回目の新型コロナウイルス接種の対象者データの抽出や本市に転入された方の4回目接種用の接種券を発行するための改修である。

問 eスポーツ・プロジェクトの内容と開始時期は。

答 メインの対象者である高齢者が親しみやすい内容のものを考えている。石ヶ瀬児童老人福祉センターの整備工事が12月に終了するので、令和5年1月から供用を開始できるようにしていく。

建設産業委員会

令和4年度大府市一般会計補正予算
(第2号)

問 令和3年度に行ったプレミアム付商品券発行事業の成果と、それを踏まえた今回の変更点は何か。

答 商工会議所のアンケートでは、7割以上の事業所で「新規の顧客があった」と回答しており、有意義な事業であったと感じている。事業の概要は変わらないが、利用期間や換金期間に余裕を持ったスケジュールを予定している。



▲プレミアム付き「おぶちゃん商品券」(イメージ)

問 スマート農業推進事業補助金の補助要件等はあるものか。また、どのようなスケジュールで進めるのか。

答 作業時間を縮減できるようなスマート農業用機械等の導入に対する補助となり、補助率は対象経費の5分の4以内で、1件当たりの補助上限は400万円である。5月下旬から1か月程度の申請期間を設けて、審査する予定である。

問 既に循環バスロケーションシステムが導入されているが、AIカメラを導入することで、具体的にどのようなことが向上するのか。

答 AIカメラを導入することで、乗降客数のカウントと車内の混雑状況の公開が可能になる。また、高齢者に配慮したわかりやすい操作画面への変更や、Googleマップ等でリアルタイムの運行情報を踏まえた経路検索が可能になり、様々な公共交通機関を利用した広域移動の利便性が向上する。市にとっても、乗降客数のカウントにより、今後の循環バスの路線再編の参考になると考えている。

令和4年度大府市水道事業会計補正予算 (第1号)

問 水道基本料金の6か月分の免除について、他市町はどのような状況か。

答 大府市独自の取組であり、報道機関にも取り上げられたため、全国から多くの問合せを受けている。問合せの中には、実施に向けて検討しなければいけないという意見もあった。

令和4年度大府市下水道事業会計補正予算(第1号)

問 県が五ヶ村川に、さらにポンプ場を設置することで、どのような機能の強化になるのか。

答 五ヶ村川の水を境川に排水することにより、五ヶ村川及び五ヶ村川に流入している延命寺川の水位も下げることができるので、治水安全度が向上する。

《6月定例会》

厚生文教委員会

大府市使用料条例の一部改正について

問 市民体育館の第2サブアリーナの空調設備の使用料を、中学校の体育館のように、最初の1時間に係る経費を算入しない料金設定としなかった理由は何か。

答 学校開放施設では、午前、午後、夜間という単位で料金を設定しているが、第2サブアリーナは1時間当たりの単位としており、使用単位が異なるためである。



▲空調設備が導入された体育館の第2サブアリーナ(横根町)

令和4年度大府市一般会計補正予算(第3号)

問 新型コロナウイルス感染症の影響による保険税の減免制度については、国庫で措置されることが多いが、今回の減免実施に伴う歳入の減少分については、国民健康保険財政調整基金からではなく、新型コロナウイルス感染症対策基金を財源として、一般会計から国民健康保険事業特別会計への繰り出しを行うことになったのはなぜか。

答 税の減免については、税の公平性を損ねかねないため、慎重かつ限定的に行われるべきであり、国からの交付金以外は一般会計から補填すべきと考える。

令和4年度大府市一般会計補正予算(第4号)

問 生活困窮者支援団体補助金の1団体当たりの補助上限50万円について、使途などの制限を設けるのか。

答 国の通知では、対象経費の例として、食料品や日用品等の購入費、会場の借上料などが示されているため、活動団体のニーズを確認した上で、できる限り支援していきたいと考えている。

問 民間保育所等食料費等補助金については、新型コロナウイルス感染症対策基金を財源としているが、先日、愛知県も補助を行うことが公表された。今後、県からの財源措置がされることになるのか。

答 県の補助制度の詳細がまだ示されていないが、財源を確保するためにも県の要綱に沿って実施していきたいと考えている。

財産の取得について(統合新設保育園給食室用備品)

問 現在、吉田保育園、米田保育園で使用している給食備品の再利用などをどのように考えているか。

答 統合新設保育園は、食数が倍増する上に、新たにゾーニングされた調理室になるため、新しい備品を購入していく方針で進めている。移動式のワゴン、食器等は、新設保育園でも使用していくが、冷蔵庫などは、現在と規模が同じ程度のほかの保育園での再利用を考えている。耐用年数を迎え、再利用できない備品については、廃棄する予算を令和5年度に計上する予定である。

建設産業委員会

財産の取得について(災害対応特殊消防ポンプ自動車)

問 今回取得する災害対応特殊消防ポンプ自動車の特徴は。

答 この車両は、緊急消防援助隊設備整備費補助金を活用して取得する。交付要件である吸管、消防用ホース等を備えるほか、本市独自の災害対応として水槽を積載する。



一般質問

(12人) ※正副議長は一般質問を行わない慣例になっています。



心身ともに健康で知恵と愛を
持つ児童生徒を育てる

大西 勝彦 議員



質問 大府市幼保児小中連携教育の指針「きらきら」を更に定着させるための今後の進め方はどのようにするのか

回答 「きらきら」教育の概要及び「きらきら10」の更なる周知に向けて、次のような三つの取組を進めている。一つ目として、幼保児小中連絡会議において周知状況に関する情報交換と対策を検討する。二つ目として、「きらきら」教育の概要及び「きらきら10」について、区長会や民生児童委員の会合、各小学校区のネットワーク会議において説明と協力依頼をする。三つ目として、学校や保育園等の職員による説明や、学校だより等により、保護者への周知を図る。今後も、まちぐるみによる子どもたちの育成を求め続けていく。

質問 中学生平和大使の報告会を全中学校で実施する考えはあるか

回答 中学生平和大使派遣事業を中学校のカリキュラムの中で平和教育として取り上げる考えはあるか

回答 報告会の実施については、学校ごとで判断してもらうことになる。ただし、教育委員会としても、本事業を通じて生徒が学んだことを、是非、校内の同世代の仲間たちに伝えてもらいたいと考えているので、各校には、他の生徒にも伝えていく機会を設けてもらうようお願いしていきたいと考えている。

回答 市内小中学校では、学習指導要領を踏まえながら、児童生徒の発達段階に応じて平和に関する内容を取り扱う教育計画案となっており、これを基に各校の校長がカリキュラムを決定している。その中に、「中学生平和大使派遣事業」そのものを取り込むことは教育課程の時間内では難しいと考えている。



水害に強いまちを目指して

小山 昌子 議員



質問 東海豪雨の教訓をどのように伝えていくのか

回答 東海豪雨の教訓から、迅速な災害対応ができるよう、災害対策本部及び支部の開設時期を、本市への警報等の気象情報発表時点に見直すとともに、災害対策支部の開設と同時に自主避難者の受入れができるようにしている。豪雨災害等から命を守るためには、市民自らが早めの避難行動をとることが重要であり、東海豪雨の浸水実績や避難経路を確認しやすくまとめた「大府市防災ガイドブック」を全戸配布し、自助意識の醸成に努め、危険を感じたら、市が発令する避難情報を持つことなく、安全な場所への避難行動をとることを伝えている。

質問 子どもへの水害教育をどのように実施しているのか

回答 自然災害に関することでは、風水害などについて、過去

に県内で発生した事例を取り上げて、教員の話を聞くだけでなく、自ら調べ、問題の解決方法をみんなで話し合うなど、地域で起こり得る災害を想定して、自分たちのできることについて考える学習に取り組んでいる。

質問 ため池・調整池の草刈りや浚渫はどのようなタイミングで行うのか

回答 ため池及び調整池については、全ての施設で年一回点検を行い、次年度以降の草刈りと浚渫の箇所を定め、計画的に実施している。ため池及び調整池の草刈りについては、予算の範囲内で、年に各2、3か所、秋頃に実施している。



▲家族で確認しよう「防災ガイドブック」



原油価格・物価高騰の負担軽減
がん検診の受診率向上

柴崎 智子 議員



質 問 学校給食における保護者の負担軽減に対する見解は

答 弁 原油価格・物価高騰の影響により、学校給食の食料料

費が高騰した場合においても、生活費の負担が増している保護者に対して学校給食費を値上げすることはしない。学校給食で摂取が必要なカロリーの確保のために必要となる食料料費の予算が不足した場合にも、市の負担で予算を増額し、対応する。

質 問 ウクライナ避難民に対する日本語学校への交通費支援と就労支援についての考えは

答 弁 日本語学校への交通費支援については、本市からの人道支援一時金や、大府市国際交流協会の募金を活用して充てていただき、就労支援についても、避難民の要望を踏まえ、本市と大府市国際交流協会が連携して、市内企業に働き掛け、マッチング等の支援を行っている。

質 問 市民の足としてのタクシーの運行と、事業者の経営維持にもつなげる取組はないか

答 弁 国では、事業継続・再構築に向け、新分野の開拓、業態・業種の転換などを支援する制度を設けている。市内でサービスを提供するタクシー事業者2社は、大府商工会議所の会員のため、本市の補助事業である経営相談を活用できる。

質 問 がん検診の受診率向上のためは

答 弁 胃がん検診は、X線検査に加え、本年度から市内6か所の医療機関で内視鏡検査の費用補助を実施し、選択肢を拡大している。また、後期高齢者医療保険に加入する健診未受診者に郵送する再勧奨とあわせて、がん検診の再勧奨も行う。案内文では、必要な情報をわかりやすく伝え、受診の促進に努める。



みんなに優しいまちと
なるために

木下 久子 議員



質 問 市役所、公民館及び児童老人福祉センターの男性トイレにサニタリーボックスを設置する考えはあるか

答 弁 公共施設には、日々多くの方が来庁されるため、トイレについても多様性に配慮した対応が必要であると考えている。現在のところ、各施設において設置の要望はないが、今後も、市民の意見を聴きながら、必要性を判断していく。



▲市役所1階
男性用多目的トイレの表示

質 問 前立腺がん検診の無料クーポン券が配布されていないのはなぜか

答 弁 前立腺がん検診については、血液中のPSAという値

質 問 市内全ての保育園から出される使用済み紙おむつを公費で処理する考えはあるか

答 弁 本市は、「子育て応援都市おおぶ」として、様々な子育て支援に取り組んでいる。保護者の声を踏まえ、保護者や保育士の負担軽減と衛生面を考慮し、令和5年4月から全ての公立保育園で実施できるよう、既に準備を進めている。民間保育施設の対応についても、検討していく。



巨大地震等の発生でJR線東西の往来が困難となった場合に

藤本 宗久 議員



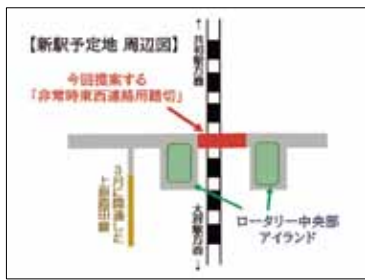
質 新駅予定地について、JR線が一定期間以上の運行停止となった場合にのみ使用する非常時東西連絡用踏切の設置を検討してはどうか

答 JR東海道本線は、仮に被災して運行停止するような事態になったとしても、一刻も早く復旧されるものと認識している。一方、県や市の地域防災計画では、災害時に緊急輸送道路の復旧作業等を他の道路に優先して実施することとしているため、非常時東西連絡用踏切の設置を検討する考えはない。

質 新駅駅前広場予定地を汎用性のあるものにするためにロータリー中央のアイランド部分の撤去を検討してはどうか

答 新駅予定地東側では、線路沿いの一部を駐車場用地として貸付けし、ロータリーは市循環バスの停留所を設置するとともに、バス運行の時間調整のための待機場所としても活用している。アイランド部分では、東西ともに緑化を行い、JR利用者に向けて本市のシティプロモーションに取り組んでいるので、当面の間、アイランド部分の撤去を検討する考えはない。

答 西側のロータリーは中央防炎倉庫に近いため、物資を輸送する車両等の駐車場や、中央防炎倉庫に搬送された物資を一時的に保管する場所として利用できるかと考えている。



▲新駅予定地の周辺図



住民基本台帳法を逸脱した自衛隊への個人情報提供

久永 和枝 議員



質 自衛官募集のために18歳と22歳の方の氏名や住所が記載された宛名シールを自衛隊に提供している法的根拠は何か

答 国は「住民基本台帳の一部の写しの国への提出について、自衛隊法第97条第1項、自衛隊法施行令第120条に基づき、現行でも実施可能である。募集に関し必要な資料として、住民基本台帳の一部の写しを用いることは、住民基本台帳法上、特段の問題を生ずるものではない」ことを通知している。

供することができる。ただし、当該利用又は提供によって、本人又は第三者の権利利益を不当に害するおそれがあると認められるときは、この限りでない」の第1号「法令又は条例の規定に基づくとき」の規定に基づき、適正な情報提供をしている。

質 自衛隊への個人情報の提供を望まない市民が除外申請できるようにするべきでは

答 自衛隊への資料提出は、関係法令及び条例等に基づき既に実施しており、本人の同意は必要とされていないため、現行どおりの事務を継続する。

質 自衛隊へ氏名や住所の個人情報を提供したことを、対象の市民に広報紙等で知らせるべきではないか

答 法や条例等に基づき実施しており、対象の市民に知らせることは考えていない。



今の社会情勢を踏まえた大府の現状と今後について

鷹羽 登久子 議員



質問 物価高騰や光熱費の上昇及び資材等の調達困難が及ぼす影響について、現状と今後の対応は

弁答 十分な納期及び工期の確保に努めている。しかし、今後の社会経済情勢により、工事の遅延や請負代金額の上昇が懸念され、4月に早期発注、早期完了を促す庁内通知を発した。学校については、保護者への負担を求めるのではなく、予算の増額等による対応を行い、早期に発注することで、物品の納入期間を十分に確保し、児童生徒が学ぶ環境に影響を与えないよう努めていく。

質問 愛知県全体の人口が減少し始めたことを踏まえ、本市の人口動態の現状と今後についての見解は

弁答 自然動態は現在も増加を維持しており、社会動態は、良好な住宅地の供給や先進的な

子育て施策等の迅速な実施により、中長期的には、増加傾向にある。今後、高齢化の進行により、自然増は徐々に減少するところが見込まれるが、子育て世代を更に呼び込み、高い出生率につながるこれまでの好循環を保持し、緩やかな人口増加を続けることができると考えている。

質問 都市戦略における中心市街地整備の位置付けとその重要性についての基本的な考えは

弁答 現在、都市構造上の課題を整理している。今後のまちづくりには、居住・医療・福祉・商業機能の誘導や、道路交通及び公共交通ネットワークを形成することで、市民生活の質の向上が必要である。駅周辺を中心市街地と位置付け、利便性の高い交通網などの都市特性を最大限に生かし、玄関口にふさわしい魅力を備えた空間を形成するため、多様な機能の充実を図っていくことが重要である。



「子育て応援都市おおぶ」の更なる推進のために

宮下 真悟 議員



質問 「児童福祉施設等再編計画」に示した在り方の課題に対する取組状況と、今後についての考えはどうか

弁答 保育施設の再編に当たっては、保育需要と供給のバランス及び施設の老朽化等を総合的に判断し、公立保育園と民間保育施設の適正配置を進めている。今後も、適正配置を進めるとともに、公立保育園と民間保育施設それぞれの強みを生かしながら、質の高い保育を提供できるよう取り組んでいく。

質問 「保育の質ガイドライン」を策定している自治体もあるが、本市の考えはどうか

弁答 国の定める「保育所保育指針」では、保育の内容に係る基本原則に関する事項を踏まえ、各保育所の実情に応じて創意工夫を図り、保育所の機能及び質の向上に努めなければならぬとされている。本市では、

市全体で保育の目標を共有するとともに、全ての保育園が毎年度に保育の計画を作成し、共通の認識を持った保育を実施している。

質問 一時的保育の0歳児への拡充や、産後ヘルパー派遣等のサポートについての考えはどうか

弁答 令和3年度から新たに一時的保育を開始した民間保育施設では、私的サービス事業において生後4か月及び生後6か月から利用が可能である。産後ヘルパー派遣については、子育てに困難を抱える家庭を対象に訪問支援事業を実施しており、また、市内のNPO法人では、家庭の状況に限らず、自宅での一時預かりや家事支援等の産前産後支援も行われている。今後、一時的保育や産後ヘルパー派遣に対する需要や民間の動向を注視しながら、官民が連携して取り組んでいく。



防災・減災について

野北 孝治 議員



質 問 同報無線から流れる情報を防災ラジオ以外で取得する方法を考えているか

答 弁 確実な情報伝達を実現するため、デジタル田園都市国家構想推進交付金を活用し、新たな情報伝達ツールとして、本市独自の防災情報アプリケーションを導入する。このアプリケーションは、同報無線の情報を始め、本市の防災情報をプッシュ型で配信するとともに、高齢者、障がいのある方や外国人の方にも利用しやすい、点滅表示機能や音声読み上げ機能、多言語表示機能等を備えており、令和5年1月から仮運用ができれば準備を進めている。

原則、屋根やひさしがある屋外としている。また、避難所でのペットの飼育は、各家庭での飼育とは異なるため、平常時から、ペットシートでの排せつ練習、避難用ケージでの飼育、飼い主の身元を示すものの装着、多くの人が集まる場所でのマナー等、災害時におけるペット飼育者の心構えについて啓発している。

質 問 避難所のトイレが衛生的に利用できるように、どのようなことを考えているか

答 弁 避難所となる学校体育館のトイレでは、使用するビニール袋を利用者が個々に使用し回収することで、衛生的に使用できる。本年度は、衛生面を更に高めるため、簡易トイレとビニール袋の備蓄を増量するとともに、新たに、使用済みのビニール袋の臭いを抑えるための圧縮袋や、要配慮者のためのオストメイト用トイレの備蓄を進めている。

質 問 避難所に来た動物の対応をどのように考えているか

答 弁 大府市避難所運営マニュアルにおいて、ペットとともに避難された場合を想定して、ペットの飼育場所を定めており、



誰もが人格と個性を尊重し
共生できるまちを目指して

鷹羽 富美子 議員



質 問 「手話言語条例」制定後に取り組まれた手話施策の成果と今後の課題は何か

答 弁 条例の理念を実現するため、手話啓発パンフレットの作成配布や職員向けの研修などを行ってきた。聴覚障がいにおいては、一人一人、聞こえの程度は多様であり、更なる啓発が必要だと考える。

質 問 本市における手話通訳資格者及び要約筆記者の担い手の確保状況及び課題は何か

答 弁 大府市への派遣が可能な手話通訳資格者は2名、要約筆記者は3名で、いずれも人数の確保が困難であり、要約筆記者は高齢化が課題となっている。その課題に対し、パソコン要約筆記体験講座の開催とともに、県開催の養成講習会の受講負担軽減策について、既に令和5年度の実施計画に計上している。

質 問 コミュニケーションボードは災害時のどのような場面を想定して活用するのか

答 弁 聴覚障がいの方が避難所生活での体調の異変、困りごと等に関する相談の際のコミュニケーション手段として使用する。



▲高齢障がい支援課窓口対応用コミュニケーション支援ボード

質 問 障がいのある人に必要な合理的配慮の提供を支援する助成制度を考えていないか

答 弁 事業者への助成制度を設ける予定はない。年内に点字プリンターを市役所に設置するので、視覚障がい者とその家族だけでなく、点字メニューなども利用を呼び掛ける予定である。



デジタルの活用による
社会的課題の解決に向けて

国本 礼子 議員



質問 コロナ禍での女性支援策とその効果はどうか

答弁 国の交付金を活用したメールやオンラインによる相談、キャリアコンサルタントによる相談など、相談体制の拡充を図るとともに、居場所サロンを設置している。コロナ禍に加え、原油価格・物価の高騰も続く中、今後も、不安や困難を抱える女性への支援に取り組んでいく。

質問 女性のデジタル人材育成の推進についての見解は

答弁 デジタル人材は今後の需要が見込まれ、コロナ禍での影響を受けにくく、安定した収入が見込まれること等から、女性の就労支援において有効な手段と考える。今後も、デジタル人材の育成を推進していきたい。

質問 利用者向けデジタル活用支援推進事業は、今後どのように展開されていくのか

答弁 誰一人取り残されず、全ての人々がデジタル化の恩恵を受けるためには、情報リテラシーの向上とデジタルデバイドの解消が必要である。公民館講座を実施するほか、(株)NTTドコモとも新たに連携し、デジタル活用に関する理解やスキルを向上させるための講座を新規に実施する予定である。

質問 ごみ分別においてアプリを活用してはどうか

答弁 アプリは、外国人や高齢者の方に幅広く情報を伝える方法として有効であると考えられるので、本市に合ったごみ分別アプリの導入に向けた検討を進めていく。



▲スマートフォンによるごみ分別アプリの活用

※情報リテラシーとは、情報を正しく読み解き、発信できること
※デジタルデバイドとは、情報通信技術(IT)の恩恵を受けることのできない人に生じる情報格差



地域で活躍する80歳代の
次の世代の力をどう生かすか

森山 守 議員



質問 60歳代、70歳代の力をどう生かすか

答弁 社会福祉協議会に就労的活動支援コーディネーターを配置し、企業や団体とのマッチングを行っている。今後も、意欲に応じた就労、ボランティア、地域活動への参加を支援する。

質問 シルバー人材センターの職員や会員がより生き生きと活動するために、どのような支援が必要と考えるか

答弁 地域社会に貢献したいという思いを持つ高齢者が多数みえる現状においては、シルバー人材センターが果たす役割はますます重要になる。今後も職員と会員の連携を通して、職員のやりがい、充実感を醸成できよう後押ししていきたい。

質問 老人クラブの中で、会員を増やしている組織では、何が行われているのか

答弁 特に会員の増加が顕著なクラブは、散歩をしながらゴミ拾いをするプロギングや、ラジオ体操を継続的に実施しているほか、役員が企業等への協力依頼に出向き、参加記念品等の提供により、魅力あるイベントづくりを行う等、新規事業への取組と、継続的な活動が行われている。また、健康増進、子どもたちの見守り活動、地域清掃美化活動等、地域貢献活動により、地域から感謝され、自己有用感を抱くことができる取組や活動メニューが豊富であることも会員の増加につながっているため、その経験や情報を他のクラブとも共有し、生かしていく。

質問 市長との直接対話の機会についてどう考えるか

答弁 地域の方々との対話は非常に大切だと考えており、各種会議、ラジオ体操及びサロン等の機会を活用し、直接対話の機会としていきたい。

テーマ活動 調査研究結果の報告

総務委員会

大府市におけるゼロカーボン

シテイの推進について

当委員会は、岡村市長が令和3年1月「ゼロカーボンシテイの実現に向けた取組を着実に進めていく」と表明されたことを受け、調査研究を行うこととし、市民協働部環境課の職員を講師とした勉強会、東部知多衛生組合、至学館大学生、愛三工業、大府市地域婦人団体連絡協議会、横根自治区、オオブユニテイとの情報交換会、愛知工業大学の近藤元博教授による研修会、福島県郡山市へのオンライン視察を実施した。調査研究の結果を以下に記す。

(1)ゼロカーボンシテイの推進の主要である主なステークホルダーに求められる役割

- ①市民・地域 自らが効果を実感できるような、廃棄物の削減や省エネ等の取組について、具体的に探求、実行していただくこと。
- ②企業、事業者 サプライチェーン全体のゼロカーボンに取り組むた

めの研究や計画等を具現化していただくこと。

- ③関係する学識専門機関等 科学的見地からゼロカーボンの取組を可視化するために市民、産業へ個別の支援を行うことと、本市と専門機関とのつなぎ役となっていたこと。

(2)大府市への政策提言

- ①健康を軸としたゼロカーボンシテイの推進

持続可能なまちづくり、くらし、福祉・教育、環境、産業振興、インフラ整備、市民活動等の政策を通じて、30年後の「健康都市おおぶ」のあるべき姿を明記して、誰もがその効果を実感できる取組とすること。

- ②全てのステークホルダーの主体化 産官学はもとより、個人、地域、本市を構成する全てのステークホルダーを主体とすること。
- ③地域におけるキーパーソンの育成 本市とともに市民の先導役となるキーパーソンを、地域の実情に応じて選任し、パートナーとして信頼関係を築き、取組を進めていくこと。
- ④産業構造の変革への対応 国や県の対応を待たず、業態変化

そのものや、変化に対応しきれない事業者への対策等を、早急に、具体的に考え始めること。

- ⑤省エネやごみ削減への取組の徹底 強化

費用負担や責任の分担等、行政も私ども議会も、ともしれば避けて通りがちな施策も含めて、様々な手法を積極的かつ具体的に議論すること。

⑥企業や個人に対するパラダイムチェンジの促進

根拠となる数字を示した上で、変化する生活と費用負担について、市としてのビジョンを描くこと。

本市と市民が取り組んできた「健康」へのこだわりと意欲といった視座も重視しつつ、企業や個人のパラダイムチェンジを促進すること。

なお、「パラダイムチェンジ」とは、これまで当然と思われていた認識や思想、価値観等が、誰にでもわかる形で劇的に変化することである。

⑦動機の積極的な共有

これまで活用してきた伝達ツールの効果を検証し、考えうる新たな媒体を積極的に取り入れ、また市長自らが市民に直接話す機会を多く持つことが主体的な動機の形成を図るために必要である。その上で、どれだけ人為的に排出されるCO₂が削減されたのかを実感できる取組を進めること。

⑧全てのステークホルダーの連携の構築

ゼロカーボンシテイという結果を

生み出す機運を醸成するために、本市に存在する、あるいは関わる全てのステークホルダーが連携、展開、継続できる仕組みをつくること。

厚生文教委員会

高齢者の生きがいづくりについて

テーマ選定の中で、全国的に課題となっている超高齢社会に目を向け、本市の多くの高齢者の皆さんが、様々な場面で元気に活躍されている姿を拝見し、あの元気の源は何かという議論となった。「生きがい」が、源となっているのであれば、生きがいを持つこと、生きがいとはどのようなことなのか、生きがいをつくるためにはどうしたらよいかを考え、調査研究を行うこととした。

研究方法は、高齢者を取り巻く現状や課題を把握し、内容やポイント等を委員間で共有し、福祉部長、高齢障がい支援課長、地域福祉課長を講師とした勉強会、常設サロンの訪問、アンケート調査、老人クラブとの情報交換会を実施した。また、愛知県社会福祉協議会「あいしるバーカーレッジ」についても調査研究を行った。

(1)生きがいづくりのために

これまでの調査研究の結果、高齢

※ステークホルダーとは、利害や行動で関係のある人
※サプライチェーンとは、製造から販売までの物の流れのこと

者の生きがいづくりについての施策をより推進するために、次の7つの留意点をあげた。

①きつかけづくり

サロン、老人クラブ、シルバー人材センターに参加するきつかけの多くは友人や知人からの声掛けであった。また、知的欲求を満たすことや就労的活動、ボランティア活動を通じた社会参加をすることも「生きがいづくり」のきつかけとなっている。きつかけを得るためのまず第一歩として、市民が気楽に声を掛けることのできる地域づくりや、社会参加しやすい環境整備及び情報提供をしていくことが大切である。

②居場所づくり

人との交流の場となっているサロン、社会活動ができる場や知的欲求を満たすことのできる生涯学習の場を更に充実させ、誰でも利用しやすく通いやすい居場所をつくることが重要である。

③健康づくり

社会参加するためには健康が第一である。多くの方が心身ともに健康であり、「健康寿命」の延伸へとつながるような施策を更に充実させ、参加する意欲を高めることが重要である。

④積極的な周知

①～③の施策を進めたとしても、

その情報が高齢者に届かないと効果のないものになる。まずは、高齢者が我が事として捉えられるように、高齢者に関する施策を積極的に周知し、様々な選択肢を示すことが重要である。

⑤ICT支援の強化

日常生活を円滑にするためや仲間とのコミュニケーションを図るためにもICTの活用は必要なものとなっている。高齢者の地域活動や社会参加を促すために、ICT支援を強化していくことが重要である。

⑥移動手段の充実

「生きがいづくり」を見つけ出すこととして、「今日用事を作ること（教養）」と、今日どこかへ行くこと（教育）のように、外出することは大切なことである。高齢者は移動手段が限られてしまう場合もあり、誰もが外出しやすくするためにも移動手段を充実させることが重要である。

⑦横断的な連携

高齢者の生きがいは多岐にわたるため、福祉部署だけではなく、他部署との連携により、幅広く高齢者を支える仕組みが必要である。また、愛知県の行っている施策との効果的な連携を行うことや、実際に地域活動等を行っている高齢者とも連携を深め、必要な情報の提供や相談体制の充実が重要である。

(2)おわりに

「生きがい」は、人それぞれであるが、心に潤いを与え、健康に過ごすためには大切であり、そのために「生きがいづくり」が肝心となる。本市としては、第一に福祉面で十分な支援を行い、活動しやすい環境にすることが重要である。「健康都市おおぶ」として、一人でも多くの高齢者が心身ともに充実した人生を送ることができ、本市に住んで良かったと思うことができるまちとなる施策を期待する。

建設産業委員会

共生社会における

公園のあり方について

コロナ禍において、3つの密の回避が強く叫ばれたことにより、人々の意識が屋外空間へと向かっていき、公園の役割が改めて見直され、注目度が高まっている。また、近年は共生社会の実現に向けた様々な取組が推進されており、これまではバリアフリーやユニバーサルデザインに基づいた公園整備が進められてきたが、ここ数年で全国的に、更に一歩進んだインクルーシブ公園が注目されてきている。本市においてもインク

ルーシブ公園を念頭に置きつつ、共生社会を踏まえた上で、公園のあり方を調査研究することとした。

(1)調査研究の方法

水と緑の部水緑公園課の職員を講師とした勉強会、市内の公園の現状視察、シルバー人材センター、発達支援センター「おひさま」及び「みのり」との情報交換会、DVD視聴会、東京都とのオンライン行政視察等の方法で実施した。

(2)今後、本市に求められること

これからの本市においては、それぞれの地域に根差した、よりインクルーシブで魅力的な公園づくりが求められる。本市の現状と課題を踏まえ、共生社会における公園のあり方について調査研究し、委員同士で協議した結果、重要な点を3点にまとめた。

①障がいのある子ども、ない子どもも遊べる公園整備

まずは、既設公園に一つでもいいのでインクルーシブ遊具を設置してみることに重要と考える。また、改修整備の際には、全ての遊具をインクルーシブ遊具にするのではなく、既存遊具と混在して整備することにより、障がいのある子どもとない子どもが同じ空間で遊べるように配慮する必要がある。公園整備のワークショップを行う際にも、地域住民だ

けでなく、障がいのある当事者又は支援者団体等、様々な意見が反映できるようにする必要があります。そして、整備後は定期的にモニタリング調査を行い、ニーズの把握に努め、継続的に適切な改善をしていくことが求められる。

② 共生社会に対する市民意識の醸成

インクルーシブ遊具の設置により、障がいのある子どもや保護者が公園を利用する機会を増やし、地域には様々な人がいることを市民が認識するきっかけとしたいと考える。また、地域社会における相互理解の促進、ひいては共生社会に対する意識の醸成が図られるよう、障がいのある子どもとない子どもとの橋渡し役を置き、交流できるきっかけづくりのイベント等を公園で開催すべきと考える。

③ 利用者目線に立った細やかな情報提供

多目的トイレの詳細、駐車場からの距離やアクセス、東屋の形状等の画像の掲載など、利用者の目線に立った細やかな情報提供が求められる。

③ おわりに

公園のあり方については様々な議論があるが、東京都との行政視察の際に述べられた「インクルーシブ」という言葉が独り歩きをして、一過性の流行となることなく、継続的に進

めてほしい」という言葉を肝に銘じつつ、共生社会にふさわしい公園整備を継続的に推進していただきたい。共生社会とは何か、障がいの有無や多様性について等、議論されることと自身が、そもそもまだ共生社会に至っていないことの表れだと感じている。本市において、真の共生社会が形成されることを切に願っている。

議会運営委員会

オンライン会議について

令和3年度も、新型コロナウイルス感染症に伴う対応を余儀なくされた。感染防止の観点から、様々な活動が制限される中で、行政視察の受け入れや地方議員向けの研修会について、オンライン会議システムを利用して行う自治体や団体が増加した。当委員会においても、茨城県取手市議会に対し、「オンライン視察」を行った。さらに、実際にオンライン会議ソフト「Zoom」を使用して、議員の自宅等と市役所を結ぶ接続試験を実施するなど、オンライン会議の法的な課題や技術的な課題についても調査を行った。

調査研究の結果、本会議については、地方自治法の規定により、オン

ラインで行うことができないこと、また、委員会については、市職員も多数出席し、一般傍聴も可能な会議であることから、現状ではオンラインで行うことは課題が多いと考える。しかし、市議会の業務を継続していくためにも、オンライン会議システム等のICT技術については、今後とも調査研究を継続していく必要があると考える。

大府市議会業務継続計画

(議会BCP)について

当委員会では、昨年度策定した「大府市議会危機対応要綱」に基づく議員の行動マニュアルに、新たに「議会運営マニュアル」等を追加した議会BCPについて協議した。

これは定例会・臨時会の期間中に危機が発生した場合の議会機能の継続に関することや、感染症による危機対応について整理したものである。

危機には、大地震を始め、水害、感染症など様々なものがあり、その規模や被害も多様である。そこで、議会BCPにおいては、「平時に行っていないことを非常時に行おうとしても難しい」との考えから、既存の会派代表者会議等の会議体を活用して、正副議長のもと、危機対応及び業務継続に臨むこととした。

議員の公開情報及び

個人情報取扱いについて

当委員会は、市議会公式ウェブサイトに等で公表している議員名簿の掲載内容について、住所の一部分を掲載しないことも可能にする見直しを行った。

その理由の一つは、多様な層の住民が、より議会に参画しやすくなるように環境を整える必要があるということ。もう一つは、プライバシーの観点などから立候補に支障をきたすおそれがあると総務省から見直しを行うよう通知が出されていたことによる。

欠席の届出関係の見直しについて

当委員会では、令和3年第3回定例会に、大府市議会会議規則の一部改正案を提出し、議員の本会議及び委員会の欠席事由として、育児、看護、介護、配偶者の出産補助を加えるとともに、議員本人の出産の場合には、産前6週、産後8週の範囲において、あらかじめ欠席届を提出することができ旨を明記した。

委員会の活動報告の詳細は、市議会のウェブサイトに掲載しています。

～「ぎかいの広場」という愛称に込めた思い～

このたび創刊 100 号の発行を機に、「おおふ議会だより」に「ぎかいの広場」という愛称を新たに付けることにしました。この愛称には、議員が集まって話し合う「議論の場」という意味に加えて、市民の皆様のご意見を「つなぐ場」、そして、市民の皆様気軽に足を



50号

運んでいただけるように「集う場」という意味を込めました。

大府市議会は、通常は年に4回の定例会を開催していますが、令和3年にはこれに加えて4回の臨時会を開催し、コロナ禍の影



75号

響を受ける市民の方々への支援に関する様々な行政の施策を後押ししてまいりました。

これからも私たち大府市議会は、「開かれた議会」として、活動をわかりやすく市民の皆様が発信してまいります。どうぞ新しくなった「ぎかいの広場」をよろしくお祈いします。また、議場にもお越しいただきますよう、議員一同、心よりお待ちしています。

大府市議会議長 早川高光



9 月 定 例 会 の お 知 ら せ

日	月	火	水	木	金	土
8/28	29	30	31	9/1	2	3
			本会議 (初日)			
4	5	6	7	8	9	10
				一般質問	一般質問	
11	12	13	14	15	16	17
		建設産業 委員会	厚生文教 委員会	総務委員会		
18	19	20	21	22	23	24
			本会議	常任委員会 予備日※		
25	26	27	28	29	30	10/1
	常任委員会 予備日※			本会議 (最終日)		

いずれも午前9時からです ※常任委員会予備日は、審査の経過により開催しないことがあります

議会広報委員会

これから1年間、私たちが「ぎかいの広場」の編集を担当します。皆様からご意見をお聴きしながら、より良い紙面づくりに努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。



国本礼子 副委員長
太田和利
野北孝治 委員長
藤本宗久
加古守
森山守
三宅佳典
鷹羽登久子 副委員長